第2回富山市総合計画審議会 概要

場所：富山市役所8階大会議室

時間：10:00～11:10

1 開会

2 富山市総合計画基本構想（案）諮問

森富山市長より八嶋総合計画審議会会長へ諮問書の手渡し

3 市長あいさつ

このたびの基本構想（案）については、当審議会や市民の皆様からのご意見を踏まえ、長期的かつ広範な視点からその作成に努めてきた。

合併の際に作成した新市建設計画の考え方を継承し、「共生・交流・創造」をまちづくりの基本理念として掲げるとともに、新たな時代の潮流をしっかりと見定め、施策を展開していくこととしている。

具体的なまちづくりの目標として、「人が輝き安心して暮らせるまち」など5つを設定し、これらの目標達成に向けた様々な取り組みを進め、本市の持続的な発展を図るものである。

皆様方には、この計画を礎とし、富山市が都市と自然が調和した活力あふれるまちとして発展していくため、それぞれの立場から審議を頂くようお願いしたい。

4 議事

（1）策定スケジュール（案）について

事務局より説明

（2）富山市総合計画基本構想について

事務局より説明

< 概要 >

（会長） ただいま説明のあった基本構想（案）の細部にわたる審議については、5つの部会で今後進めることにしたいと思うが、特にご意見があればお伺いしたい。

（委員） 読む人の分かりやすさの観点から意見を述べると、時代の潮流とまちづくりの主要課題、まちづくりの目標は関連しているはずである。この関係を整理したフロー図が必要である。

内容については、時代の潮流で、（5）地方分権・構造改革・規制緩和の進展と述べているが、現在、都市圏と地方の“格差”が議論になっている。

地方都市富山に住むことに誇りをもつことが大切である。これは行政として市民に発信する大事なメッセージである。このことをどこかに書き込むべきである。

(委員) 様々な人びとが様々な働き方をしていることを認める社会にならなくてはいけない。人びとが協働社会を認め合う仕組みづくりを構想で表現したい。

また、情報化はそれぞれの役割を下支えするものである。ある意味では横串を刺すような仕組みである。その辺りを構想で表現したい。

(委員) 環境は時代のキーワードである。富山は全国的にも恵まれた自然環境を持っているが、全体の印象として自然に頼り過ぎている。この中で、いかに活力を作り出していくかが重要であり、このことが日本に稀なすばらしい地方都市をつくるものと思う。

また、新市建設計画の将来像の副題で、「～あふれる活力と豊かな自然を支え合う躍動のまち～」というものがあるが、この、“人が躍動している”という部分が構想全体にあまり感じられない。

もう1点、協働とは、多様な主体の力を結びつけることによって、今までにないすばらしい状態を作り出すことである。このあたりが構想で見えるようになればよい。

(委員) 全体のフロー図があれば良いと思う。

部会での議論では、今までの富山市の総合計画ではなく、広域となった富山市の総合計画として、これからの10年間を見据えて、何を基本的な施策にしていくのか、ということに留意した。

時代の潮流の(1)人口減少と少子・超高齢社会の進行の中で、高齢者や女性の能力の発揮という表現があり、重要な視点であると思うが、生産年齢人口が減少し労働力が不足していく中、外国人労働力を今後どうしていくのか。今後10年間を考えて、何か施策が必要ではないか。

(委員) 超高齢社会を迎え、コンパクトなまちづくりがどの部会でも議論されている印象を受けた。都市機能をどのように回復していくかが富山市として大きな課題であるので、このことに配慮した総合計画であってほしい。

具体的には、ライトレール、まちなか居住などは、富山市のリーディングプロジェクトとしての意味合いが強い。これらの目標を大きく掲げられるような仕組みの総合計画となるべきである。

全体的に総花的でどのようなまちを目指すのかが分かりにくいという意見があるが、計画の推進には目標達成を意識することが必要である。

(委員) 地方に住むものとして、日本国全体が弱ってきているように感じている。これを市場主義で乗り切っていこうという考えが強いと感じる。

弱い部分、例えば年齢で言えば高齢者、地域では中山間地域、企業では中小企業などにどう焦点をあてるのかが議論になる時期が来ている。市民が不安を感じている部分にどう安心感を与えるのかが、地方行政の役割ではないか。

国の市場主義的な改革に乗るべきところと、構えてかかるところのメリハリを意識して全体を捉える必要がある。

(委員) この基本構想は富山市のものである。国のものではない。国の構想を見ているように感じられる。また、どの都市でも通用するような構想となっている。富山市としての掘り起こしが足りないのではないか。もう少し特徴を出すべきである。

(委員) 今の意見に同感である。まちづくりの主要課題は、タイトルが一般論でまとめられており、どの都市でも同じようなものになってしまっている。もう少し具体的な書き方のほうがわかりやすいのではないか。

特に、地域住民の愛着や誇りになる歴史・文化・祭りなどは、タイトルからもわかるようにするべきである。

また、施策の方向の中では出てくるが、主要課題の中に環日本海など国際性の視点が必要ではないか。

(委員) 子供の教育に関する視点が全般的に少ないと感じる。多様な価値観や、新しい価値の創造という表現があるが、子供を教育するという観点から言うと、普遍的な価値観を教えることを強調する必要があるのではないか。子供が普遍的な価値観を身に付けるためには、大人の支援がないと難しい。

また、時間の流れの中で重点的に推進する施策を明示することも必要ではないか。

(会長) 当審議会として、富山市が日本海側有数の中核都市として、今後さらに発展するための意見や提言をとりまとめ、答申したいと思いますので、委員の皆様には部会で活発な議論をお願いしたい。

(事務局) これをもって終了させていただく。

また、この基本構想(案)について、本日より7月21日までパブリックコメントを実施する。

5 閉会

(以上)